

第 74 次印旛地区教育研集会
(社会科教育・中学校)

振り返りフィードバックを活用した授業改善の効果

～Microsoft Forms の使用や生成 AI を用いてそのフィードバックを集約・分析する手法～

佐倉市立佐倉中学校
柴田 力

佐倉市立佐倉中学校印教研提案資料

佐倉中学校 柴田 力

1 研究主題

振り返りフィードバックを活用した授業改善の効果
～Microsoft Forms の使用や生成 AI を用いてそのフィードバックを集約・分析する手法～

本校社会科研究主題

ICT 機器の活用を通して、思考力・判断力・表現力を高めるための授業のあり方はどうあるべきか。

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領

学習指導要領、歴史分野の目標 (2) では、以下の通りに掲げている。

(2) 歴史に関わる事象や意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択、判断したりする力、思考・判断したことを証明したり、それを基に議論したりする力を養う。

歴史分野の目標の (2) は、歴史分野の学習を通して育成される資質・能力のうち「思考力・判断力・表現力等」に関わりを示している。本校の生徒のうち「思考力・判断力・表現力」に課題が残る。そのため、本提案では「思考力 (問いを立てる力)・判断力・表現力」の向上を研究の中核として位置づけた。

また、学習指導要領、社会科の目標 (1) には以下のように書かれている。

(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な資料を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。

さらに学習指導要領「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い (1) (2)」では指導に際し以下の事項に配慮するように定められている。

(2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともにコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に活かすことで、生徒が主体的に調べ分かれようとして学習に取り組むようにすること。その際、課題の追求や解決の見通しを持って生徒が主体的に情報手段を活用できるとともに、情報モラルの指導にも留意すること。

社会科の目標(1)「調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする」に着目した。佐倉中学校では GIGA スクール構想の下、生徒に情報端末が配備されている。そのため、情報端末を活用し、「効果的に調べまとめる技能」を向上させること本提案の二つ目の目標に定めた。

本提案では、「思考力・判断力・表現力の向上」、「効果的に調べまとめる技能の向上」と目標を定め、その目標を達成するために「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い (2)」の言語活動の充実、「コンピュータや情報通信ネットワークの積極的活用」として研究を進めた。

(2) 印教研研究主題から

よりよい社会の実現を寄与する「生きる力」を培う社会科学習
～自ら課題を見出し、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して～

本提案では、上記内容に加え、印旛教育研究会主題である「自ら課題を見出し、自らの考えを表現できる児童生徒の育成を目指して」の観点から研究を進めた。特に着目した点は「自らの考えを表現できる」という観点である。思考力・判断力・表現力は次に記述する本校社会科研究部の主題設定にも関連している。

(3) 生徒の実態

本校の規模は3学年5学級152名、2学年4学級122名、1学年5学級129名、支援学級16名の全校生徒416名である。学年ごとに社会科教員が配置され、学校生活の様子も見ながら各学年の実態に合った取り組みを行い、定期的な教科部会で共通理解・情報交換をしながら行っている。

共通する課題としては、自信をもって発言や発表をする生徒が少ないということがあげられる。この課題の解消に向けて、これまで行われてきた学習方法の工夫に、ICT機器を活用し、多くの情報を参考に調べ(=思考力の育成)、グループ活動も行いながら、個々が調べた内容を検討・吟味し(=判断力の育成)、生徒が自信をもって発言・発表(=表現力の育成)できるような生徒の育成に取り組んでいる。

中学校の社会科教育において、生徒の振り返りを活用した授業改善は重要なテーマである。特に、ICTを活用した振り返りの収集と分析は、現代の教育現場でますます重要性

を増している。本論では、Microsoft Forms を用いて生徒の振り返りを収集し、生成 AI を活用して集約・分析する手法について、その教育的な意義と効果を、現行の学習指導要領と照らし合わせて論じる。

2 研究仮説 振り返りフィードバックを活用した授業改善の効果

中学校社会科において、Microsoft Forms を使用して生徒からの授業振り返りを収集し、生成 AI を用いてそのフィードバックを集約・分析する手法は、授業の質向上および生徒の学習意欲の向上に寄与するのではないか。

MicrosoftForms について

Microsoft Forms (マイクロソフト フォーム) は、簡単に使えるアンケートやフォーム作成ツールである。このツールを使うことで、誰でも迅速にカスタマイズ可能なフォームを作成し、意見の収集やデータの収集を行うことができる。特に、教育機関やビジネス環境での利用が広がっており、多様なニーズに対応する柔軟性がある。

Microsoft Forms の主な特徴としては、直感的なインターフェースが挙げられる。ドラッグ&ドロップで簡単に質問や回答の形式を設定でき、テンプレートを使用することで作業の効率化を図ることができる。また、多様な回答形式(テキスト入力、選択肢、チェックボックス、段階的な評価など)をサポートしており、さまざまな情報を収集することが可能である。フォームのデザインも自由度が高く、テーマや画像の挿入、質問の順序変更などが簡単に行える。さらに、フォームの共有や送信方法も柔軟で、リンクを通じてアクセスを制御したり、特定のメールアドレスに直接送信したりできる。このため、広範な利用シーンに対応し、情報収集や意見調査の手段として広く活用されている。

データの集計や分析も容易であり、リアルタイムで集まった回答を可視化することができる。自動生成されるレポートや統計情報を通じて、迅速に洞察を得ることが可能である。さらに、Microsoft 365 との統合も強化されており、OneDrive や Teams と連携してワークフローの効率化を図ることができる。

セキュリティ面でも、Microsoft の信頼性の高いインフラストラクチャーを活用しており、データの保護やプライバシーの確保に配慮しています。フォームの作成者は、必要に応じてアクセス制御を設定し、データの漏洩を防止できる。

総括すると、Microsoft Forms は使いやすさ、柔軟性、セキュリティの面で優れたフォーム作成ツールである。教育現場での学生アンケートや、企業内でのフィードバック収集、イベントの登録フォームなど、さまざまなシーンで活躍している。使い勝手の良さや多機能性から、利用者のニーズに応じたカスタマイズが容易に行え、生産性の向上に貢献している。

生成 AI ・ ChatGpt について

ChatGPT は、OpenAI が開発した最新の自然言語処理モデルである。その名前は「Generative Pre-trained Transformer」の略で、トランスフォーマーアーキテクチャを基盤としている。このモデルは、大規模なテキストデータセットを用いて事前に訓練され、さまざまな自然言語処理タスクに対して優れた性能を発揮している。

ChatGPT は、その名前が示す通り、対話型の応用に特化している。ユーザーとの対話を通じて自然で意味のある会話を生成し、質問に答えたり、会話を続けたりする能力を持っている。これにより、一般的な知識の提供から、日常的な会話や技術的な支援まで幅広い用途に対応できる。

ChatGPT は、深層学習と自己教師あり学習を基盤としており、多数の文脈を理解して適切な回答を生成することができる。そのため、医療、カスタマーサポート、教育、エンターテインメントなど、さまざまな分野での実用化が期待されている。

このモデルの強みの一つは、その柔軟性にあります。訓練中にさまざまなトピックやスタイルのテキストデータを使用することで、多様な話題に対応できる。また、ユーザーからのフィードバックを取り入れることで、対話の質や適切さを改善していくことも可能である。

ChatGPT の開発は、AI による対話の自然さと実用性の向上を目指している。この技術の進化は、将来的にはより複雑な会話や文脈を理解し、より深いレベルでの対話を実現することを目指している。そして、これにより、人々の日常生活やビジネス活動のあらゆる側面での利便性が向上することが期待されている。

総括すると、ChatGPT は先進的な自然言語処理技術を駆使して、対話型インターフェースを提供することで、ユーザーとのコミュニケーションを効果的に支援するツールである。その応用範囲の広さと、高度な自動生成能力により、今後の AI 技術の進化において重要な役割を果たすことが期待されている。

具体的な仮説

① 授業の質の向上

生徒からのフィードバックを基に授業内容や進行方法を適宜改善することで、授業の理解度と満足度が向上する。具体的には、生徒が理解しにくいと感じた部分や興味を持ったトピックを次回の授業に反映することで、学習効果が高まると予測される。

② 生徒の主体性の向上

定期的な振り返りを実施し、それを授業に反映させることで、生徒は自分の意見が尊重されていると感じる。これにより、自ら学びに向き合う姿勢が育まれ、主体的に学習に取り組むようになる。さらに、自己評価の習慣が身につくことで、自己改善能力も向上する。

③ 参加意欲（エンゲージメント）の向上

授業の改善過程に生徒が参加することで、授業に対する関心と積極的な参加意欲が高まる。具体的には、生徒が自分のフィードバックが次回の授業に反映されることを実感することで、授業に対する参加意欲が向上すると予測される。

④ 個別指導の質の向上

Microsoft Forms と生成 AI を用いたフィードバックの集約・分析により、教師は個々の生徒の学習状況を詳細に把握することができる。これにより、理解度に応じた個別指導や補習を行うことで、学習の遅れを防ぎ、生徒一人ひとりの学習効果を最大化できると考えられる。

⑤ 深い学びの実現

生徒が自らの学習内容を振り返り、フィードバックを通じて再確認することで、単なる知識の定着だけでなく、思考力・判断力・表現力が養われる。これにより、「深い学び」が実現し、生徒の総合的な学力向上につながると予測される。

これらの仮説は、Microsoft Forms によるフィードバック収集と生成 AI による分析を活用することで、授業の質の向上、生徒の学習意欲の向上、主体的な学びの促進、個別指導の質の向上、および深い学びの実現が期待できることを示している。これにより、現行の学習指導要領が求める教育目標の達成に大きく寄与することが考えられる。

3 現行の学習指導要領の概要

現行の学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」を実現することを重視している。具体的には、以下のポイントが強調されている。

主体的な学び：生徒自身が学習目標を持ち、学びに向かう態度を養うこと。

対話的な学び：生徒同士や教員との対話を通じて学びを深めること。

深い学び：知識の定着だけでなく、思考力・判断力・表現力を育むこと。

4 授業後のアンケート

⑥ 授業の理解度に関する質問

- ・授業内容の理解度について（4段階評価）
- ・「今日の授業でわかったことはなんですか？」
- ・「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」

5 歴史の授業（単元）について

今回の提案では3学年の歴史分野、教科書は東京書籍のp228 満州事変と軍部の台頭からp239の戦争の終結、いわゆる15年戦争に絞って実践をした。

時数	内容
1 時間目	満州事変と軍部の台頭 授業後に行ったアンケート ・授業内容の理解度について（4段階評価） ・「今日の授業でわかったことはなんですか？」 ・「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」
2 時間目	日中戦争 授業後に行ったアンケート ・授業内容の理解度について（4段階評価） ・「今日の授業でわかったことはなんですか？」 ・「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」
3 時間目	第二次世界大戦の始まり 授業後に行ったアンケート ・授業内容の理解度について（4段階評価） ・「今日の授業でわかったことはなんですか？」 ・「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」
4 時間目	太平洋戦争の開始 授業後に行ったアンケート ・授業内容の理解度について（4段階評価） ・「今日の授業でわかったことはなんですか？」 ・「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」
5 時間目	戦時下の人々 第二次世界大戦の始まり 授業後に行ったアンケート ・授業内容の理解度について（4段階評価） ・「今日の授業でわかったことはなんですか？」 ・「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」
6 時間目	戦争の終結 第二次世界大戦の始まり

	授業後に行ったアンケート ・ 授業内容の理解度について（4段階評価） ・ 「今日の授業でわかったことはなんですか？」 ・ 「今日の授業で疑問に思ったことはなんですか？」
7 時間目	上記の6時間を通しての、生徒にフィードバックし続けて、以下の質問に対して自分の言葉でまとめさせた。 Q 「なぜ日本は戦争に突入したのかを自分の言葉で書いてみよう。」

6 効果検証のためのアンケート項目

① 振り返りの効果に関する質問

- ・ 振り返りの意義（4段階評価）

「授業の振り返りを行うことは、あなたの学習に役立ちましたか？」

- ・ 具体的な効果（自由記述）

「振り返りを通じて気づいたことや学びを深める上で役立ったことがあれば教えてください。」

② 自主性と参加意欲に関する質問

- ・ 自主性の向上（4段階評価）

「振り返りを行うことで、あなたは自主的に学習に取り組むようになりましたか？」

- ・ 参加意欲の向上（5段階評価）

「フィードバックが授業に反映されることで、授業に対する関心や参加意欲が高まりましたか？」

- ・ 具体的な事例（自由記述）

「授業に対する関心や意欲が高まった具体的な事例があれば教えてください。」

③ 個別指導に関する質問

- 個別指導の効果（5段階評価）

「振り返りを通じて、教師からの個別指導が効果的だったと感じますか？」

- ・ 個別サポートの充実度（自由記述）

「個別指導やサポートについて、具体的な改善点や良かった点があれば教えてください。」

満州事変の授業が終わった後の Microsoft Forms を用いた感想や意見を収集した。何人かの生徒の意見を紹介し、はじめたばかりの頃と授業を重ねた後の変化を載せさせてもらう。

Q 今回の授業でわかったことを書こうという質問に対して。

- ・ 生徒 A・・・満州事変のことがわかった。
- ・ 生徒 B・・・満州事変によって、日本の政治や、他国に大きな影響を与えた。

- ・生徒 C・・・政府ではなく軍が自ら色々なことを起こしていたことが分かった

Q 今回の授業で疑問に思ったことを書こうという質問に対して。

- ・生徒 A・・・特になし。
- ・生徒 B・・・なぜ、こんな争いが起こるのか。
- ・生徒 C・・・どうしてこんな事件が多いのか。

質問に対しても端的に答えることが多く、この時点で「思考力（問いを立てる力）・判断力・表現力」は深まっていないように思える。

日々、振り返りの収集を行い、生徒からの意見をフィードバックし続けた結果、戦争の終結の授業後の1時間を使って以下の質問をし、先の生徒 A・B・Cからの意見を収集した。

Q なぜ日本は戦争に突入したのかを自分の言葉で書いてみようという質問に対して。

- ・生徒 A・・・領土拡大 ・強い国だとほかの国に思わせるため もし日本が戦争に突入しなかったら多くの人死なずに済んだが、朝鮮や台湾の海外の植民地も残る可能性がある戦争になって国民は、たくさんの方が死んだり生活が厳しかったりしたと思う。
- ・生徒 B・・・自国(日本)を守るために国の防衛ではなく他国の侵攻を目的に軍力を強化してしまったことと、それによって政治より軍部が勢力をもってしまったことが原因で戦争へと加速することが国の方針になってしまったことが第一の原因。第二の原因として、日独伊三国同盟を結んでしまったことで、戦争に参加してしまうきっかけを作ってしまったことがあげられる。第三の理由として、引き際を見余ったのかもしれないと個人的に感じる。
- ・生徒 C・・・結論から言うと日本国を有利にしたかったのではないかと思います。その理由として、一つ目は昭和恐慌です。日本は不況に陥った際、教科書を見る感じ、外国と違いそれらしい対策が行われていません。そんな中、東北地方の大凶作も続きます。まさに痛む上に塩を塗る。国内が駄目なら、他国を見るしか無かったのではないのでしょうか。アジア圏は自然に恵まれ、資源もたくさんあります。そこを支配できれば国内の不況など造作もありません。それが軍事侵攻の理由1です。結果として日本はいち早く不況を脱しました。2つ目の理由は日本国の強化です。これは根本的なものですね。賠償金の獲得で国はいくらでも潤せます。この先の未来、先進国として進んでいくには軍の強化、国力の豊かさが必要だと考えたのではないのでしょうか。最後の理由は、国を守るためです。列強各国はどんどん植民地化を進めてました。ロシアも

その脅威です。歴史古き日本を守るには戦わざるを得なかったのではないのでしょうか。以下の理由から最初に述べた結論を私は推します。

結論を先に述べるという表現力や「もしも」という逆の視点で考えをできるようになっている。また、この歴史を踏まえて、これからの未来を考えるとという視点も持つことができた。自分の言葉で文章を書き、表現ができる、また、自分から疑問に思えることが多くなってきた点でも「思考力（問いを立てる力）・判断力・表現力」がついてきたと評価をしていきたい。

7 教育的な意義と現行の学習指導要領との関連

① 振り返りの収集と分析の効率化

Microsoft Forms を用いたフィードバックの収集は、現行の学習指導要領が求める「主体的な学び」を促進します。生徒が自身の学習状況を振り返ることで、学びに対する主体性が養われる。また、生成 AI を用いた分析は、教師が迅速に生徒の学習状況を把握し、個別の学習支援を提供するために役立つ。これにより、生徒一人ひとりに合わせた指導が可能となり、「個に応じた教育」の実現に寄与することができる。

② 生徒の主体性の向上

生徒が自らの学びを振り返り、それを授業に反映させるプロセスは、学習指導要領が強調する「主体的な学び」と「対話的な学び」に直結する。生徒は自分の意見が授業に反映されることで、学習意欲が向上し、授業への積極的な参加が促されます。これは、生徒の主体性を育むだけでなく、クラス全体の学習環境を活性化させる効果がある。

③ 個別指導の強化

生成 AI によるフィードバックの分析は、生徒一人ひとりの学習状況を詳細に把握することを可能にする。これにより、個々の生徒に対する適切な指導やサポートを提供しやすくなり、「深い学び」を実現するための基盤が築かれる。特に、理解が不十分な生徒や、特定のテーマに興味を持つ生徒に対して、より効果的なアプローチを実施することができる。

8 効果と現行の学習指導要領との関連

① 授業の質の向上

生徒からのフィードバックを元に授業を改善することで、授業の質が向上する。これは、学習指導要領が求める「深い学び」を実現するために重要である。生徒が理解しやすい授業内容や進行方法を模索することで、学習効果が高まります。例えば、生徒が難しいと感じた部分を次の授業で再度説明することで、理解度を深めることができる。

② 生徒の参加意欲の向上

生徒が自分の意見が尊重され、授業に反映されていると感じることで、参加意欲が向上する。これは、学習指導要領が強調する「対話的な学び」に寄与するはずである。自分の学びに対する関心や意欲が高まり、積極的に授業に参加するようになる。また、フィードバックを通じて生徒同士の意見交換が活発化し、クラス全体の学習意欲を向上させる効果も期待できる。

③ 振り返りの習慣化

定期的に振り返りを行うことで、生徒は自己評価や自己改善の習慣を身につけることができる。これは、「主体的な学び」を促進するために重要である。自己学習能力が向上し、生涯学習の基盤が築かれる。特に、中学校の段階でこの習慣を身につけることは、高校や大学での学習においても大きなメリットとなる。

9 授業を通しての成果と課題

成果

- ICT 機器を日頃から活用する生徒が多いため、積極的に参加してくれる。
- 1 クラス 35 名近くの意見を短時間に集約し、次の時間に生徒たちにフィードバックをすることができる。
- 集約されたことが、生徒たちにフィードバックできるので前時の復習にも有効になり知識を高めることにもつながる。
- 生徒たちの様々な意見を集約することで新たな疑問を発見し、次の時間にその疑問を他の生徒たちに問いかけて、考えさせたりすることもできた。思考力のアップにもつながっている。
- ICT 機器を通して、生徒自らの考えが表現できている。はじめは、短い文章や答えであったが、毎時間行うことで具体的な事象を交えながら、表現できるようになっている。

課題

- Microsoft Forms で収集、生成 AI で集約・分析するのは非常に有意義でもあり教員の負担は減るが、生徒一人一人の意見や感想について評価する視点に迷いがある。
- 全ての生徒が ICT 機器の活用を好きとは限らず、ノートを記入したいという声もあり大事にしなければいけないと考えている。
- ICT 機器の不具合もある場合も多いので ICT 機器事前の準備・確認が必要であり各担任との連携が必要である。

10 結論

生徒からの振り返りを Microsoft Forms で収集し、生成 AI で集約・分析する手法は、現行の学習指導要領の目標を達成するために非常に有意義である。効率的なフィードバック収集と分析により、授業の質を向上させるとともに、生徒の主体性や参加意欲を高める効果がある。さらに、個別指導の質を向上させることで、生徒一人ひとりの学びをサポートすることができる。これらの取り組みを通じて、より良い教育環境を実現することが期待される。

資料編

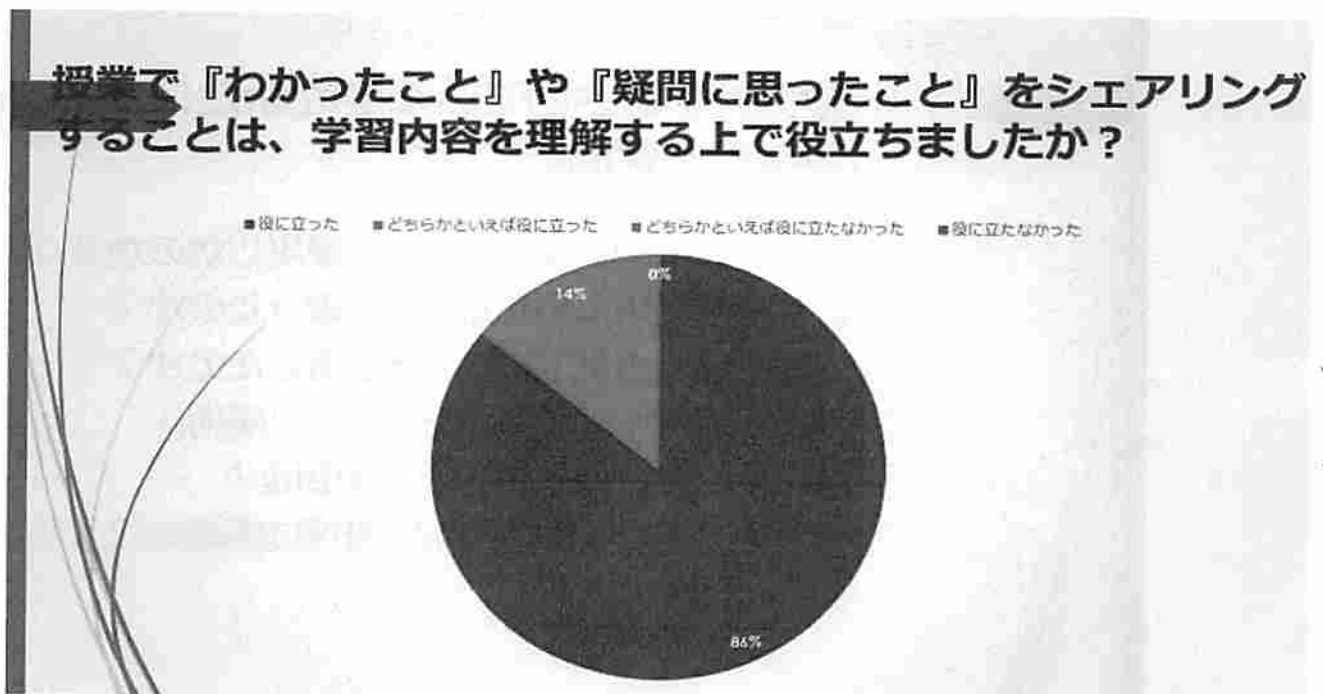
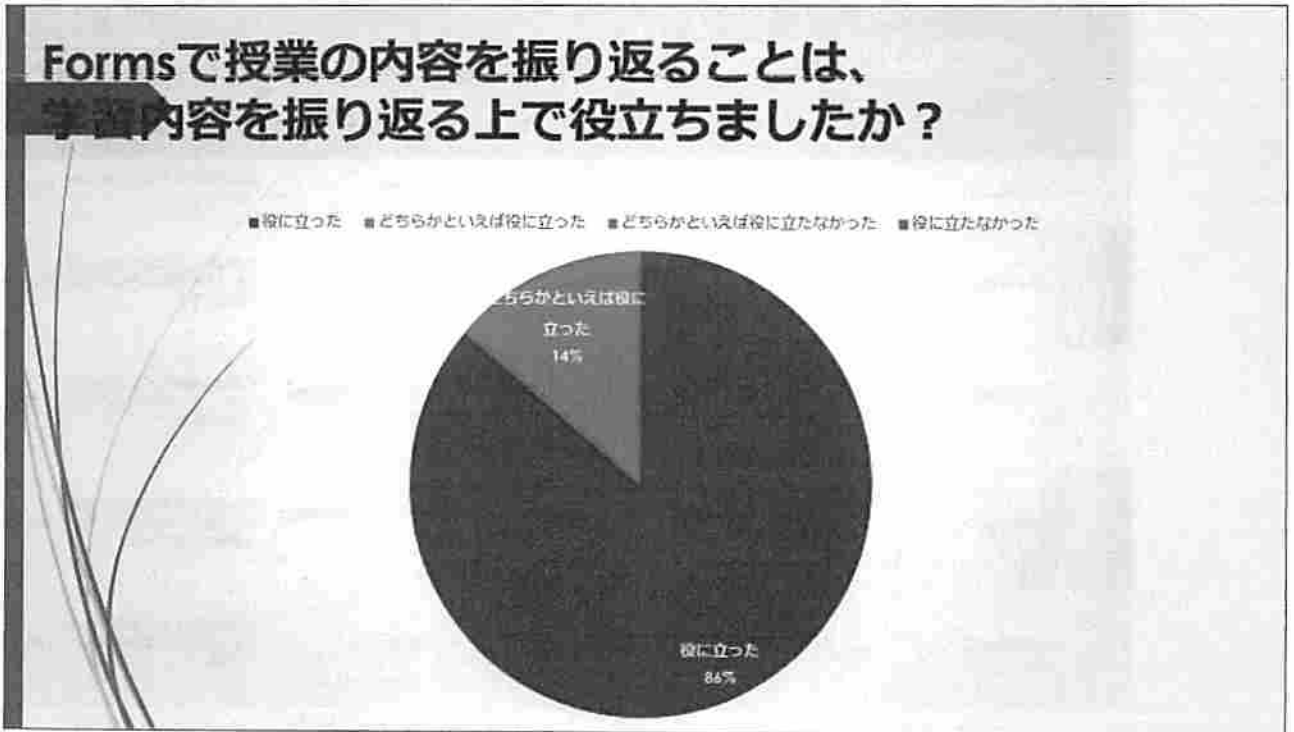
Microsoft Forms でアンケートを集約するとこのようになります。

	Formsで授業の内容を振り返ることは、学習内容を理解する上で役立ちましたか？	Formsで授業の内容を振り返ることは、学習意欲向上に役立ちましたか？	授業で「わかったこと」や「疑問に思ったこと」をシェアリングすることは、学習内容を理解する上で役立ちましたか？	授業で「わかったこと」や「疑問に思ったこと」をシェアリングすることは、学習意欲の向上に役立ちましたか？	わかったことや疑問に思ったことを振り返る活動について、あなたが思ったことを感じたことを教えてください。	わかったことや疑問に思ったことを振り返る活動について、あなたが特に印象に残っている内容を教えてください。
1	4 役に立った	4 役に立った	4 役に立った	4 役に立った	疑問がわかりやすく解決できてよかった。	戦争中の出来事、危機の内容
2	4 役に立った	4 役に立った	4 役に立った	4 役に立った	自分がわからなかったところをしっかりと理解できたから良かったです	第二次世界大戦と冷戦
3	3 どちらかといえば役に立った	3 どちらかといえば役に立った	4 役に立った	3 どちらかといえば役に立った	その日の授業のことがわかってないといけないのでとてもいいと思います	大根生画の題
4	4 役に立った	3 どちらかといえば役に立った	4 役に立った	3 どちらかといえば役に立った	第一次世界大戦や戦後の日本などを細かいところまで知って勉強になりました	第一次世界大戦です
5	4 役に立った	3 どちらかといえば役に立った	4 役に立った	4 役に立った	分からなかったら教えてくれるし、前回の授業の復習にもなった。	同時多発テロ

生徒たちからあがったアンケートで、新たに出た疑問点です。

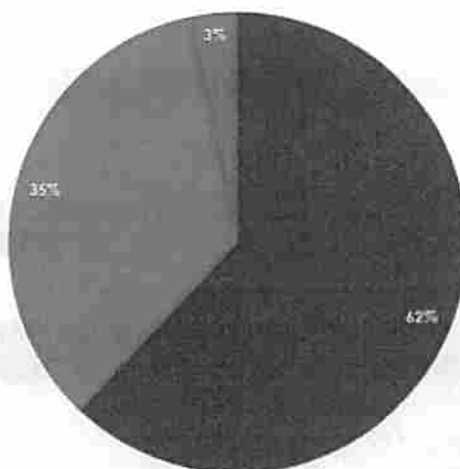
振り返りをさせていく中で新たに生徒たちから出た質問。

- ①ドイツはなぜポーランドに侵攻したのか？
- ②なぜドイツは不可侵条約を破ったのか？
- ③なぜドイツはユダヤ人を迫害したのか？
- ④なぜ真珠湾を攻撃したのか？（場所）
- ⑤ミッドウェー海戦敗北の理由は？
- ⑥ミッドウェー海戦でなぜ暗号は解読されてしまったのか？



授業で『わかったこと』や『疑問に思ったこと』をシェアリングすることは、学習意欲の向上に役立ちましたか？

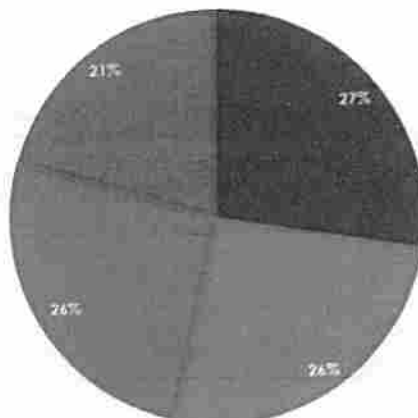
■役に立った ■どちらかといえば役に立った ■どちらかといえば役に立たなかった ■役に立たなかった



シェアリングする活動で、適するものを4つの視点で考えてもらいました。

Formで授業の内容を振り返り、授業で『わかったこと』や『疑問に思ったこと』をシェアリングする活動で、適するものを教えてください。

■疑問に思ったことを調べることで、学習意欲が向上した。 ■他の人の考えを知ることで、自分の考えや視野が広まった。
 ■わかったことをまとめることで、自分の理解が深まった。 ■学習内容を振り返ることで、疑問をもつ視点が向上した。



生徒たちのいろんな視点からの意見をもらいました。前向きな意見をもらいました。

授業内容の振り返りと学習内容の理解

○授業で疑問を次の授業で解説してくれるから疑問が残らない。

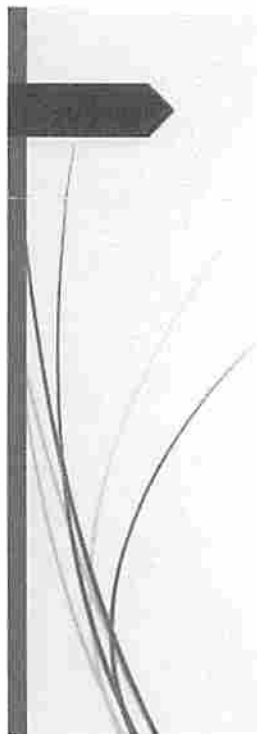
○前回のことを一言でまとめていたので、頭の整理ができた。疑問を見つけようとするので物事を深く見ることができた。

○何がわかったのか振り返ると内容が再確認できて良かった。疑問に思ったところでしっかり理解することができた。

学習意欲の向上

○疑問に思ったことを振り返ることで次の授業で調べてあたらしく知ることができた

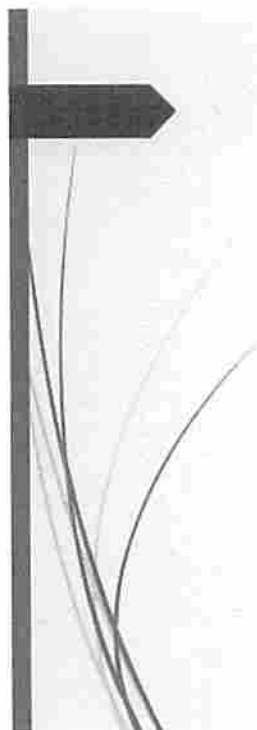
○自分が疑問に思ったことが授業に使われていてうれしかった。



シェアリング活動の効果

○前回のことを一言でまとめたので、頭の整理ができた。疑問を見つけようとする
ことで物事を深く見ることができた。

○授業で思ったことを質問が手軽にできて
よかった。授業前の振り返りで前回の内容が
思い出せて最高でした…。



活動の印象

○ほかの人が感じた疑問を自分も調べるこ
とで、さらに理解が深まりました。

○教科書に載っていないような詳しいことや
裏でなにが起きていたのかみたいなこ
とを知れたこと。